

## II 観光交流調査結果の概要

### 1 観光交流客数

- ・ 観光交流客数は、1億4,075万人で、前年度を251万人（1.8%）上回った。
- ・ 前年度に対して、宿泊客数は大幅に減少したが、新たに調査対象となった観光施設の入込み増（993万人）があったため、観光交流客数は増加した。この新規調査地点増等による要因を除いた観光交流客数は1億3,082万人であり、前年度を709万人（5.1%）下回った。

### 2 宿泊客数

- ・ 宿泊客数は1,723万人で前年度から149万人減少した。
- ・ 前年度比では過去20年で最大の減少幅（8.0%）となった。
- ・ 景気低迷に加え、新型インフルエンザ、駿河湾を震源とする地震、冷夏・長雨そして伊豆半島東方沖地震など、多くの悪要因の影響を受けたものと思われる。
- ・ 特に、県全体の宿泊客数の6割以上を占める伊豆地域では107万人（9.1%）の減と大幅に落ち込んだ。伊東市23万人（7.6%）の減、下田市25万人（22.5%）の減、東伊豆町15万人（12.9%）の減と落ち込みが大きく、地震・冷夏の影響を直接こうむったものと思われる。

### 3 観光レクリエーション客数

- ・ 観光レクリエーション客数は1億2,352万人で前年度を400万人（3.3%）上回った。
- ・ 新たに調査対象となった観光施設（993万人）があったため県全体では前年比増となったものの、この新規調査地点増等による要因を除いた観光レクリエーション客数は1億1,359万人で前年度を560万人（4.7%）下回った。
- ・ 地震による高速道路の通行止めと冷夏により海水浴客が前年度比43.4%減となった牧之原市、「ふくろい遠州の花火」の中止などの影響により61万人減となった袋井市など、市町によっては大きく減少するものもあった。
- ・ 分類別では、新規調査対象施設があったため、「歴史・文化」などが増加した。
- ・ 「国民文化祭・しずおか2009」の開催は「イベント」の増加に大きく貢献した。

#### 4 主な季節の状況

##### (1) ゴールデンウィーク

- ・ 宿泊は修善寺、伊豆の国、奥大井は前年を上回ったが、下田は前年を下回った。
- ・ 観光施設は前年並みの入込みの施設が多かったが、大型イベント開催により大幅に増加した施設があった。
- ・ イベントは、浜松まつりが前年比 8 万人の増となったが、他は悪天候や花の見頃の不一致により前年を下回る人出となった。

##### (2) 年末年始

- ・ 宿泊客数は前年度と比べると、各市町とも減または大幅減となった。
- ・ 観光施設の入込状況もほとんどの施設が前年度を大きく下回った。
- ・ 景気低迷と曜日並びの悪さに加え、伊豆地域においては直前に発生した群発地震の影響があった。

#### 5 地域別の主な特徴

- ・ **【伊豆】** 宿泊客数は地震・冷夏の影響を直接こうむり大幅に減少した。新規調査対象施設により観光レクリエーション客数が大きく増加した市があったため、地域全体として観光交流客数は横ばいとなった。
- ・ **【富士】** 大型商業観光施設や新規調査対象施設により、観光レクリエーション客数が増加した。宿泊客数は伊豆地域と同様に厳しい状況となった。
- ・ **【駿河】** 「大道芸ワールドカップ」など大きく入込みが減少したイベントがあったが、新規調査対象施設や大型イベントにより、全体的には交流客数はほぼ前年並みであった。宿泊客数は前年を下回った期が多かった。
- ・ **【西駿河・奥大井】** 地震による通行止めや冷夏の影響により海水浴客数が大幅に減少した。宿泊客数は、大きく増加した町もあったが、ほとんどの市町で減少した。
- ・ **【中東遠】** 花火が中止になる等、観光レクリエーション客数が大幅に減少した市があった。宿泊客数は一部の市で増加したが、ほとんどの市町で減少となった。
- ・ **【西北遠】** 「浜松モザイカルチャー世界博 2009」により観光レクリエーション客数は増加した。宿泊客数は全市町で減少となった。